

S.G. Report

オーストラリア領事館 出前授業

日時：平成29年5月26日（金）14:00~15:00

場所：本校会議室

参加者：1, 2年希望生徒（89名）

テーマ：Who is POCARI? Is 'Gairaigo' effective?

講師：Mr. Scott Leisemann

IES Foundation Year 副アカデミック・ディレクター

JET プログラムで3年間日本に滞在した経験をもつ。専門科目は Business, IT, Science, Mathematics である。



【授業内容】

外来語をネーミングに活用するビジネスについて、私たち日本人に馴染みのある製品を用いて、マーケティング戦略について説明。生徒は新たな視点から、その日本製品のネーミングを知る。アクティブ・ラーニング形式の授業で、インタラクティブな英語でのコミュニケーションを体験できた。



【生徒の感想】

- 外国人から見た日本の商品名のおかしさや、日本製品の海外へのマーケティングについて学べ、新しい発見がたくさんあった。
- 日本と外国の文化の違いが、製品によって受け入れられ方や購入する人が違ったりすることを初めて知った。今後は文化の違いを踏まえて、外国の方と接していきたい。
- 日本の外来語が、（英語で）おかしい意味になっていることに驚いた。「音がいいから」などの理由で採用されているなんて全く知らなかった。
- 日本製品が外国で商品名を変えていたり、Wiiのような宣伝方法もあったりと、国の壁を越えた共有、グローバル化が進んでいて、そのためには相手の文化や言語を知っておく必要があると思うし、伝えるという気持ちが大切だと思った。
- 今まで「文化の違い」というと難しく感じていたが、ファストフードや飲料水などの身近なものを紹介してくださり、楽しかった。これからは、もっと楽しみながら英語や他文化について勉強し、自分の視野を広げていきたい。
- 日本にある、私たちが何気なく使っている言葉や英語の物の名前には、ネイティブの方にとっては不自然だと感じるものがある。これは言語と文化の違いから生じるものだと思うが、正しい言葉、ふさわしい言葉遣いを知らないことは、不作法だとも思った。

